

IBM Cognos TM1
バージョン 10.2.0

新機能ガイド

IBM

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、15 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 に適用されるものであり、後続のリリースにも適用される可能性があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos TM1
Version 10.2.0
New Features Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.6

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corporation 2007, 2013.

目次

はじめに.	v
IBM Cognos TM1 10.2.0 の新機能	1
Cognos TM1 バージョン 10.2.0 用のモバイル・アプリケーション	1
Cognos TM1 バージョン 10.2.0 のインストール要件	1
バージョン 10.2.0 での新しい Cognos TM1 スコアカード	2
Cognos TM1 Server バージョン 10.2.0 での新機能.	2
マルチスレッド・クエリーによるパフォーマンスの改善	2
セル・レベルのセキュリティ	3
新しく追加された TurboIntegrator 関数.	3
Java Web アプリケーション・サーバーに基づく Cognos TM1 Web	3
Microsoft Excel .xls ファイルの変換ツール	4
Cognos TM1 Performance Modeler バージョン 10.2.0 の新機能.	4
キューブの計算	4
フィーダーの最適化	4
データ・フロー・ダイアグラム	5
モデル・オブジェクトとアプリケーションの転送の改善	5
承認者または作成者に対して指定されたビュー	6
承認階層の再利用.	6
ワークフロー・アクションからトリガーされる TurboIntegrator プロセス	6
Cognos TM1 Applications のメンテナンス・ユーティリティ	7
Cognos TM1 への Cognos Planning モデルのインポート	7
ドリルスルー	7
完全選択リスト機能	7
アクセス設定の容易化	7
リンク・エディットの改善.	8
Cognos TM1 Applications 10.2.0 での新機能	8
Cognos TM1 Application サーバーの Cognos Configuration	8
TM1 Server の有効化および無効化	8
DLS による新規 E メール通知	8
補足情報の消去	8
Cognos TM1 Operations Console バージョン 10.2.0 の新機能	9
Cognos TM1 Operations Console を実行するための新しい URL	9
デフォルト・グループの追加	9
アラートおよび E メール通知	9
モニターの状態の保管と再ロード	9
ログ可能なイベント数の増加	9
ウォッチドッグがサーバー状態に基づいて E メールおよびアラートを送信可能	9
Cognos TM1 Applications Server で使用可能になった自動ログ記録とスケジュールされたログ記録	10
Cognos TM1 Operations Console バージョン 10.2.0 でのサーバー・ログ・スケジュールの共有.	10
Cognos TM1 Operations Console バージョン 10.2.0 からのパフォーマンス統計の開始.	10
「ディスクにログ記録」オプションによって、簡略化された自動ログ記録が使用可能になりました.	10
IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 10.2.0 での新機能	10
Cognos TM1 バージョン 10.2.0 での Cognos Insight の新機能	11
ワークスペースの印刷およびエクスポート	11
組み合わせグラフ	11
属性の処理	11
データの配分	12
双方向言語のサポート	12
数字の形状のサポート	12

外部データのインポート	12
詳細の表示へのドリルスルー	12
配布モードの向上	13
スコアカード	13
特記事項	15
索引	19

はじめに

IBM® Cognos® TM1® バージョン 10.2.0 には、パフォーマンス機能とスケーラビリティ機能が備わっています。

IBM Cognos TM1 は、ビジネス計画、パフォーマンス測定、および運用データを統合します。それにより企業は地理的または構造的状況に関係なく、ビジネスの効率および顧客との対話を最適化することができます。Cognos TM1 では、データ、協調プロセス内の責任、および情報を一貫して詳細にモニタリングすることができます。

情報の検索

IBM Cognos 製品資料 (すべての各国語版を含む) を Web で入手するには、該当する IBM Cognos インフォメーション・センター (<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/cogic/v1r0m0/index.jsp>) にアクセスしてください。リリース・ノートはインフォメーション・センターに直接公開されます。これには、最新の技術情報と APAR へのリンクが含まれます。

サンプルに関する免責事項

Samples Outdoors 社、GO 販売、Great Outdoors 名のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実際の名前、住所、電話番号、または取引額との類似は偶発的なものです。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、著作権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。無断の複製は禁止されています。

ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、または視力の限られた方など、身体の不自由な方に情報技術製品をご使用いただけるように支援します。IBM Cognos TM1 Performance Modeler、IBM Cognos Insight、および Cognos TM1 操作コンソールはユーザー補助機能に対応しています。詳しくは、これらの製品の資料を参照してください。IBM Cognos TM1 は、ユーザー補助機能を現在のところサポートしていません。

将来予想に関する記述

このマニュアルでは、本製品の現在の機能について説明しています。一部の内容で、現在利用できない項目について言及している可能性があります。これは、将来利用できるようになることを意味するものではありません。そのような内容は、資料、コード、または機能の提供に向けた取り組み、確約、あるいは法律上の義務を

意味するものではありません。機能の開発、リリース、時期や機能性は IBM の独自の決定によるものとします。

IBM Cognos TM1 10.2.0 の新機能

IBM Cognos TM1 のバージョン 10.2.0 には、以下の新機能があります。

Cognos TM1 バージョン 10.2.0 用のモバイル・アプリケーション

IBM Cognos TM1 Mobile Contributor は、Apple iPad 用の新規モバイル・アプリケーションです。

Cognos TM1 Mobile アプリケーションは IBM Cognos TM1 Server に接続し、同じサーバーに接続する他のデスクトップ・プログラムおよび Web プログラムと共存します。 Mobile アプリケーションを使用して、以下のタスクを実行します。

- Cognos TM1 Applications から Planning の全アプリケーションにアクセスする。
- 全承認ノードの送信状況を表示する。
- グリッド形式またはグラフ形式でキューブ・ビューと対話する。
- iPad 上の値を変更し、データが更新された Cognos TM1 Server 上の計画に送り戻す。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1* インストールおよび設定ガイド」の『Cognos TM1 Mobile Contributor のデプロイ』を参照してください。

Cognos TM1 バージョン 10.2.0 のインストール要件

以下の新機能は、IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 の一部です。

- Microsoft Visual C++ 2010 再頒布可能パッケージ。
- Microsoft .NET Framework 2.0 以降が、Cognos TM1 Architect 拡張規則エディターにのみ必要となります。

Cognos TM1 Web での Java™ の使用

IBM Cognos TM1 Web は、Apache Tomcat などの Java Web アプリケーション・サーバーで実行されるようになりました。そのため、Microsoft インターネット・インフォメーション・サービスと Microsoft .NET Framework が不要になりました。デフォルトでは、Cognos TM1 インストールにより、Cognos TM1 Web は、Cognos TM1 インストールとともに提供された Apache Tomcat Web アプリケーション・サーバーを使用するように設定されます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1* インストールおよび設定ガイド」を参照してください。

翻訳文書

インストールの際、オンライン文書のうち、必要な特定の言語翻訳だけをインストールすることを選択できます。この変更によってインストール時間を短縮することができます。

オンライン文書の英語翻訳はデフォルトでインストールされます。

別の言語のオンライン・ヘルプを選択するには、インストールの際に、Translated Documentation ノードを展開し、インストールする言語を選択します。

言語翻訳を追加でインストールする場合、Cognos TM1 は環境設定に基づいて、オンライン・ヘルプで使用する言語を検出します。例えば、フランス語に翻訳された文書がインストールされている場合、ブラウザ設定はフランス語に設定され、オンライン・ヘルプはフランス語になります。

インストール・ウィザードの最初の画面の「インストール時の言語の選択」設定ではインストール・ウィザードの言語だけが定義されます。Cognos TM1 ソフトウェアで使用される言語は、オペレーティング・システム・ソフトウェアおよび Cognos TM1 tm1s.cfg 設定ファイルの言語設定によって決まります。

使用する言語を Cognos TM1 が検出する方法については、「*IBM Cognos TM1 インストールおよび設定ガイド*」の『拡張設定』の章の『Cognos TM1 言語設定』のトピックを参照してください。

選択可能な追加の言語

オランダ語、スロベニア語、およびタイ語版の IBM Cognos TM1 ソフトウェアおよび文書が選択できるようになりました。

バージョン 10.2.0 での新しい Cognos TM1 スコアカード

Cognos TM1 でのスコアカードにより、スコアカードおよび戦略管理機能が Cognos TM1 に統合され、Performance Management と計画のより高いレベルの統合が提供されます。

重要業績評価指標 (KPI) をモニターする対話式影響ダイアグラム、戦略マップ、およびカスタム・ダイアグラムを含むスコアカード・ソリューションを作成することができます。基礎となるデータは Cognos TM1 に保管され、対話式ダッシュボードとして IBM Cognos Insight、IBM Cognos TM1 Web、および IBM Cognos Workspace でユーザーに公開することができます。評価指標ディメンションおよび評価指標評価ディメンションは、評価指標キューブを形成します。評価指標キューブは、影響ダイアグラム、戦略マップ、およびスコアカード・ダイアグラムの生成に使用されるデータの、保管および管理に使用されます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『Cognos TM1 Scorecarding』を参照してください。

Cognos TM1 Server バージョン 10.2.0 での新機能

IBM Cognos TM1 Server バージョン 10.2.0 に以下の新機能が追加されました。

マルチスレッド・クエリーによるパフォーマンスの改善

クエリーを複数のプロセス・スレッドに分割できるようにすることにより、それらの処理パフォーマンスを改善できる可能性があります。

マルチスレッド・クエリーにより、IBM Cognos TM1 は、各クエリーを別個のコアで実行して、コアのアプリケーションのロード・バランスを自動的に取ることができます。この複数のプロセスにより、大きなクエリーや規則の効率性と処理時間を改善できます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 操作ガイド*」の『システムおよび機能の設定』の章を参照してください。

セル・レベルのセキュリティ

今回、キューブでセキュリティを割り当てるために使用するセルの数が少なくなりました。

「セルのセキュリティ」キューブで、参照先の親キューブのディメンション全体、および必須 }Groups ディメンションの反映が不要になりました。

Cognos TM1 バージョン 10.2.0 のモデル作成者は、必須の }Groups ディメンションに加えて、親キューブのディメンションのサブセットのみを使用する「セルのセキュリティ」キューブを定義することができます。

以前のリリースで作成された既存の「セルのセキュリティ」キューブは、引き続き、以前のとおり機能と動作を続けます。今回のリリースでも、親キューブのディメンション全体を使用する「セルのセキュリティ」キューブの作成は引き続き可能です。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 参照ガイド*」の『TurboIntegrator 関数、セキュリティ TurboIntegrator 関数』の章を参照してください。

新しく追加された TurboIntegrator 関数

以下の TurboIntegrator 関数が、10.2.0 バージョンの資料に追加されました。

- ServerSandboxGet
- ServerSandboxExists
- ServerSandboxListCountGet
- AssociateCAMIDToGroup
- RemoveCAMIDAssociationFromGroup
- RemoveCAMIDAssociation
- CellSecurityCubeCreate
- CellSecurityCubeDestroy

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 参照ガイド*」の『TurboIntegrator 関数、セキュリティ TurboIntegrator 関数』の章を参照してください。

Java Web アプリケーション・サーバーに基づく Cognos TM1 Web

IBM Cognos TM1 Web コンポーネントで Java が使用されるようになりました。

Java TM1 Web では、必要なネットワーク・トラフィックが少なく、クライアント・サイドのレンダリングを提供するので、より高いパフォーマンスを発揮できます。結果として、Web サーバーでのメモリーの集中的な要求が少なくなります。また、Microsoft Excel を Web サーバー・コンピューターにインストールする必要はなくなりました。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1* インストールおよび設定ガイド」を参照してください。

Microsoft Excel .xls ファイルの変換ツール

Microsoft Excel 変換ツールは、Microsoft Excel 2007 以降のワークシートを OpenXML 形式に変換できます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1* インストールおよび設定ガイド」を参照してください。

Cognos TM1 Performance Modeler バージョン 10.2.0 の新機能

以下は、IBM Cognos TM1 Performance Modeler バージョン 10.2.0 での新機能です。

キューブの計算

IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 には、キューブの計算が含まれています。

キューブのディメンション全体に渡る範囲の計算を定義することができます。キューブの計算は、モデルの管理や保守など、共通のモデル作成処理を完成させるための規則を容易に作成する手段となります。計算を追加することで、データ・ソースからより多くの情報を派生させ、モデルを分りやすくすることができます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler* ユーザー・ガイド」の『キューブの作成』を参照してください。

フィーダーの最適化

IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 の Cognos TM1 Performance Modeler には、フィーダーの最適化という新機能が含まれています。

IBM Cognos TM1 Performance Modeler で、モデル内のキューブに対してフィーダーの推奨セットを自動的に生成できるようになりました。生成されたフィーダーは、計算およびリンクから手動または自動で生成される規則によって生成できます。実際にフィーダーをモデルに書き込まずに、フィーダーの分析レポートをエクスポートして、フィーダーによる推奨を確認することもできます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler* ユーザー・ガイド」の『規則とフィーダーの管理』の章を参照してください。

データ・フロー・ダイアグラム

Cognos TM1 Performance Modeler バージョン 10.2.0 では、モデル内のキューブ間のデータ・フローをマップするグラフィカル・フロー・ダイアグラムを表示することができます。

モデル・ダイアグラムの自動レイアウトを適用するか、独自のレイアウトを設定することができます。見やすくするためにキューブをグループ分けすることができます。キューブとリンクをデータ・フロー・ダイアグラムから開くことができます。データ・フロー・ダイアグラムを使用すると、Cognos TM1 のキューブとディメンションの構造をより容易に視覚化できます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」を参照してください。

モデル・オブジェクトとアプリケーションの転送の改善

転送仕様エディターを使用すると、ソース・システムからターゲット・システムにコピーするオブジェクトを管理する効率が上がります。

転送プロセスの管理が以下の点で改善しました。

転送仕様エディター

直観的なエディターを使用して、特定のモデル・オブジェクトまたはアプリケーションを選択し、ソース・システムからターゲット・システムにコピーすることができます。転送をプレビューすることにより、転送の前に選択項目を変更することができます。

モデル・オブジェクトの依存関係の処理の向上

アプリケーションのビジネス・ロジックに精通していない場合でも、モデル・オブジェクトとその依存関係をコピーすることで、キューブの必須要素すべてを確実に転送することができます。

転送仕様の作成

オブジェクトの選択項目を転送仕様として保存することにより、転送するモデル構造を定義することができます。転送仕様を使うことにより、モデル作成者、作成者、またはその他の許可ユーザーは、スケジュールした間隔で転送プロセスを実行することができます。

転送プロセスの自動化

転送の定義 (transfer_specification.json) に基づいてバッチ・ファイルを作成し、コマンド行ユーティリティーを使ってスケジュール時刻に転送プロセスを実行することができます。

セル・データの転送

モデルの構造をソース・システムまたはターゲット・システムに転送する際、選択したモデル・オブジェクトに加えて、関連するセル・データおよびメタデータを転送することができます。

大きなモデル構造の転送

一時 RAM を超過するまでに 1 つの転送プロセスで最大 1,000 個のディメンションまでモデル構造をコピーすることができます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『データのインポートと転送』を参照してください。

承認者または作成者に対して指定されたビュー

承認者または作成者が使用するビューを指定することができます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『モデルとアプリケーションの設計』の章の『ビューと Web シートの定義』のトピックを参照してください。

承認階層の再利用

Cognos TM1 バージョン 10.2.0 では、TM1 Applications を同じキューブの異なるスライスにデプロイすることができます。

IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 では、TM1 Applications はアプリケーション全体で承認階層または承認階層のセクションを再利用することができます。この機能により、予算プロセスと予測プロセスに従う異なる 2 つのビューを作成し、それらを異なるスケジュールで作動するが、引き続き同じリーフ要素を使用するようにすることができます。同じように、同じリーフ要素を使用しながらも異なる方法で集計を実行する複数のビューを作成することもできます。例えば、地域別に集計を実行するビューを 1 つ、および満期日別に集計する同じ要素を使用するビューを 1 つ作成することができます。

コントロール・ディメンションという新しいタイプのディメンションは、コントロール・サブセットを使用することにより、承認階層の範囲を定義します。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『モデルとアプリケーションの設計』のトピックを参照してください。

ワークフロー・アクションからトリガーされる TurboIntegrator プロセス

TurboIntegrator プロセスをワークフロー・アクションが発生する直前に開始することも、直後に開始することもできるようになりました。

例えば、コミット・アクションの前に、TurboIntegrator プロセスをトリガーして、データの妥当性テストを実行することができます。あるいは、送信アクションの直後に、特定の承認階層ノードのデータを別のアプリケーションに移動することもできます。

システム関連のオブジェクトは何も編集せずに、Cognos TM1 Applications サーバーのワークフロー・アクション・トリガーを設計することができます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『アプリケーションの定義とデプロイ』のトピックを参照してください。

Cognos TM1 Applications のメンテナンス・ユーティリティー

Cognos TM1 Application の保守機能はコマンド行ユーティリティーであり、以前は Cognos TM1 Applications ポータルからのみ可能だったアクションを取ることができます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『アプリケーションの定義とデプロイ』の章を参照してください。

Cognos TM1 への Cognos Planning モデルのインポート

「**Cognos Planning モデルのインポート (Import Cognos Planning model)**」オプションは、IBM Cognos TM1 Performance Modeler で Cognos Planning モデルを作成する上で役立ちます。

インポート・オプションは、Cognos Planning モデルから生成される .XML アプリケーション定義ファイルを使用します。Cognos TM1 Performance Modeler でモデルを作成するために必要なディメンション、キューブ、およびリンクから始める場合、このファイルを使用します。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の付録『Cognos Planning モデルのインポート』を参照してください。

ドリルスルー

IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 では、ドリルスルーの関係としてリンクを公開することを選択できます。ドリルの結果として生じるビューの方向を設定することもできます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『リンクの作成』の章の『リンクのドリルスルー・オブジェクトの作成』を参照してください。

完全選択リスト機能

IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 には静的選択リストに関する新規サポートが含まれており、選択リストを数値セルに設定することができます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『ディメンションの作成とフォーマット設定』の章の『選択リストの作成』を参照してください。

アクセス設定の容易化

IBM Cognos TM1 バージョン 10.2.0 セキュリティー・オブジェクトはアクセスしやすくなり、要素およびセルのセキュリティは設定しやすくなり、セル・レベルのセキュリティに必要なディメンションの数が減りました。

要素セキュリティが適用されているディメンションが一目でわかるようになりました。さらに、Cognos TM1 Server を停止する代わりに、セキュリティ・キューブを削除することで、要素またはセルのセキュリティの使用を簡単に停止できるようになりました。セルのセキュリティでも、親キューブの完全ディメンションのサブセットのみが使用されます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」を参照してください。

リンク・エディットの改善

Cognos TM1 バージョン 10.2.0 では、リンクのソース・メンバーとターゲット・メンバーを別個に選択してから、ソース/ターゲットのメンバーの対を貼り付けることができます。

さらに、マッピングされたメンバーのペアを保持しつつ、自動マッピングを手動マッピングに切り替えることもできます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Performance Modeler ユーザー・ガイド*」の『リンクの作成』の章の『対応の確立とディメンションのマッピング』を参照してください。

Cognos TM1 Applications 10.2.0 での新機能

IBM Cognos TM1 Applications バージョン 10.2.0 に以下の新機能が追加されました。

Cognos TM1 Application サーバーの Cognos Configuration

Cognos Configuration を使用して、Cognos TM1 Application Server の設定を行うことができるようになりました。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Applications ユーザー・ガイド*」の『Cognos TM1 Applications の概要』の章を参照してください。

TM1 Server の有効化および無効化

「TM1 Applications の管理」設定画面の「追加」および「編集」オプションを使用して、TM1 Server を有効化または無効化することができます。

サーバーが無効になると、アプリケーションはサーバーと通信できなくなります。

「*IBM Cognos TM1 Applications ガイド*」の『Cognos TM1 Applications の管理』の章を参照してください。

DLS による新規 E メール通知

E メールだけで E メール通知を送信するように Cognos Configuration を設定することができます。以前のバージョンでも、通知が Cognos Connection の「受信トレイ」に送信されました。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Applications ガイド*」の『IBM Cognos TM1 Applications の概要』の章を参照してください。

補足情報の消去

管理者は、ユーザー名または日付に基づく補足情報を消去できます。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Applications ユーザー・ガイド*」の『Cognos TM1 Applications の概要』の章を参照してください。

Cognos TM1 Operations Console バージョン 10.2.0 の新機能

Cognos TM1 Operations Console バージョン 10.2.0 には、以下の新機能があります。

詳しくは、「*IBM Cognos TM1 Operations Console ガイド*」を参照してください。

Cognos TM1 Operations Console を実行するための新しい URL

Cognos TM1 Operations Console を実行するには、`http://servername:port number/pmhub/pm/opsconsole` を使用します。

デフォルト・グループの追加

デフォルトで、**admin** という名前のグループが Cognos TM1 Operations Console 設定に定義されています。

このグループは、SDATA サンプル・データベース用にデフォルトのモニター・グループを作成するために使用されます。

アラートおよび E メール通知

特定の規則を設定することにより、サーバー・プロセスとスレッド状態に基づくアラートおよび E メール通知を送信できます。

モニターの状態の保管と再ロード

Cognos TM1 Operations Console の設定を保管して、後にそれを再ロードすることができます。

ログ可能なイベント数の増加

Cognos TM1 Operations Console で、複数のスレッド、オブジェクト競合、日課、およびプロセスをモニターできるようになりました。

Cognos TM1 Application Server を Cognos TM1 Operations Console に追加するために使用されるプロセスも、以前のバージョンよりも簡単になりました。

ウォッチドッグがサーバー状態に基づいて E メールおよびアラートを送信可能

ウォッチドッグ機能を使用して、Cognos TM1 Server のアクティビティをオフラインでモニターできます。

ウォッチドッグを使用するには、サーバーの状態を識別するための基準のセットを、修正アクションや通知アクションと共に設定します。

Cognos TM1 Applications Server で使用可能になった自動ログ記録とスケジュールされたログ記録

Cognos TM1 Server に加えて、IBM Cognos TM1 Operations Console を設定することにより、Cognos TM1 Applications Server の自動ログ記録とスケジュールされたログ記録とを生成できます。

Cognos TM1 Operations Console バージョン 10.2.0 でのサーバー・ログ・スケジュールの共有

他のユーザーによって作成されたスケジュールを表示、ダウンロード、およびモニターできるようになりました。

Cognos TM1 Operations Console バージョン 10.2.0 からのパフォーマンス統計の開始

Cognos TM1 Operations Console の「モニター」オプションからパフォーマンス統計を直接開始できるようになりました。

「ディスクにログ記録」オプションによって、簡略化された自動ログ記録が使用可能になりました。

Cognos TM1 Operations Console のモニター・ビューで、「ディスクにログ記録」オプションが使用可能になりました。

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel バージョン 10.2.0 での新機能

最新リリース以降の新機能がリストされています。

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel 10.2.0 は、いくつかの主要な分野の機能が強化されています。

- IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel は IBM Cognos TM1 データ・ソースに統合されました。

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel を IBM Cognos TM1 データ・ソースと共に使用することにより、TM1 キューブに値を入力したり書き戻したりします。

Cognos TM1 システムに IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel からアクセスする際の相互運用に関する考慮事項について詳しくは、「Cognos TM1 インストールおよび設定ガイド」を参照してください。Cognos TM1 Perspectives (Microsoft Excel 用の Cognos TM1 アドイン) については、「Cognos TM1 ユーザー・ガイド」を参照してください。Cognos TM1 の資料は、IBM Cognos TM1 インフォメーション・センター (<http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/ctm1/v10r2m0/index.jsp>) で入手可能です。

- IBM Cognos 対応の Excel ワークブック、PowerPoint プレゼンテーション、および Word 文書の既存のレポートおよび数式に関するサーバー情報を更新することができます。

API メソッドの UpdateServerUrl、または「システムの更新」ダイアログ・ボックスのユーザー・インターフェースを使用して、サーバー情報を更新します。サーバー (テスト・サーバーなど) を別のサーバー (実動サーバーなど) に変更することができます。

- 非対称ネストを使用して、レポート・レイアウトの制御を拡張できます。例えば、前年の下に実測カテゴリーをネストし、現行年の下には実測カテゴリーが使用不可であるために予測カテゴリーだけをネストできます。
- 追加の言語サポート

IBM Cognos Office 製品の追加言語として、クロアチア語、デンマーク語、カザフ語、スロベニア語、およびタイ語を使用できます。

Cognos TM1 バージョン 10.2.0 での Cognos Insight の新機能

Cognos TM1 バージョン 10.2.0 の IBM Cognos Insight に以下の新機能が追加されました。

これらの機能について詳しくは、Cognos Insight の Web サイトを参照してください。

ワークスペースの印刷およびエクスポート

IBM Cognos Insight ワークスペースで、現在のタブのコンテンツを印刷できるようになりました。また、ワークスペース・タブを新規 PDF ファイルとしてエクスポートすることも、既存の PDF ファイルに新規ページとして追加することもできるようになりました。

組み合わせグラフ


IBM Cognos Insight には組み合わせグラフが用意され、縦棒グラフと折れ線グラフを組み合わせて、同じグラフで 2 つの数値データによるデータを表示できるようになりました。

縦棒で表される数値データと、折れ線で表される数値データを選択できます。例えば、クロス集計に各製品ラインの収益と経費を表示するとします。縦棒グラフまたは折れ線グラフを使用して、製品ライン別の収益や、製品ライン別の経費を表示することができます。組み合わせグラフを使用すると、製品ライン別の収益を縦棒として、製品ライン別の経費を折れ線として表示することができます。

属性の処理

IBM Cognos Insight では、属性によるフィルターに掛けること、および属性を作成および表示することが可能になりました。

以下の方法で、属性を作成し、使用することができます。

- コンテンツ・ウィンドウで、属性をディメンションの従属要素として表示します。
- 「新規データ」アイコン  を使用するか、ディメンションを編集して、属性を作成します。

- クロス集計およびグラフを属性によるフィルターに掛けるための閲覧ポイントを作成します。
- 属性をクロス集計および概要領域にドラッグして、クロス集計に各要素の属性を表示します。
- 属性をグラフの凡例およびグラフ領域にドラッグして、凡例やグラフ要素の上にカーソルを移動したときに属性を表示します。

データの配分

IBM Cognos Insight のいくつかの新しいデータ・スプレッド・タイプは、セルの範囲全体にデータを配布するために使用できます。データ・スプレッド・タイプには、相対比例配分、等リーフ、等配分、反復、直線、および成長率などがあります。

双方向言語のサポート

IBM Cognos Insight で双方向言語サポートを有効にして、ワークスペース内のテキストの方向を変更することができます。

ほとんどの場合、ウィジェットのテキストの方向は各ユーザーが設定するので、ユーザーが選択したテキストの方向は、そのユーザーのコンピューターのみでの設定です。ただし、テキストの方向は、IBM Cognos Business Intelligence に公開するときに、ワークスペースまたはレポートとともに保存されます。

テキスト・ウィジェットでは、テキストの方向を設定し、その方向をワークスペースとともに保存できるため、他のユーザーも、選択されたテキストの方向が分かります。

数字の形状のサポート

IBM Cognos Insight では、オペレーティング・システムで設定する数字の形状オプションをサポートしています。

例えば、アラビア数字を使用するようにオペレーティング・システムを設定すると、Cognos Insight の数字はアラビア数字で表示されます。

Cognos Insight の大部分の数字は、オペレーティング・システムの設定を変更すると自動的に変更されます。ただし、グラフの数字を更新するには、Cognos Insight を再始動する必要があります。

外部データのインポート

IBM Cognos Insight 内の IBM Cognos TM1 計画に参加している場合、各ユーザーのコンピューター上の ASCII ファイルから、計画内のそのユーザーが関わっている部分にデータをインポートできるようになりました。

詳細の表示へのドリルスルー

IBM Cognos TM1 管理者が IBM Cognos TM1 Performance Modeler でドリルスルー・リンクを作成した場合、ユーザーはクロス集計セルを右クリックして、別のキューブの関連データを表示できるようになりました。

配布モードの向上

IBM Cognos TM1 Applications ポータルで、IBM Cognos Insight を親要素から分散モードで開始できるようになりました。中央アプリケーション・タイプのオープンも配布モードで行えるようになりました。

旧バージョンの Cognos Insight では、Cognos Insight の分散モードでの開始は、リーフ・データ・ノードからのみ可能でした。今回、親ノードから Cognos Insight を配布モードで開き、親ノードの子データ・ノードすべてを処理できるようになりました。

例えば、下位ノードとして「フランス」、「ドイツ」、および「スペイン」を含む「ヨーロッパ」レベルがデータ・モデルに含まれているとします。以前、「フランス」、「ドイツ」、および「スペイン」ノードを Cognos Insight の配布モードで処理するには、各ノードを一度に 1 つずつ開く必要がありました。現在は、Cognos Insight を「ヨーロッパ」ノードから分散モードで開いて、すべての子ノードで同時に作業できるようになりました。

スコアカード

IBM Cognos Insight で IBM Cognos TM1 サーバーに接続すると、IBM Cognos TM1 Performance Modeler で作成したスコアカードを表示し、使用することができます。

Cognos TM1 Performance Modeler で作成したスコアカードは、Cognos Insight のコンテンツ・ウィンドウに表示されます。各スコアカードには、ワークスペースにドラッグできる影響図、戦略マップ、およびカスタム・グラフィックを背景として使用するユーザー指定の図などの項目があります。

特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr
Ottawa, ON K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴ、および [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは Microsoft の許可を得て使用しています。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

新しい TurboIntegrator 関数 3

[カ行]

キューブの計算 4

[サ行]

サーバーの無効化 8
サーバーの有効化 8
削減されたセル・レベルのセキュリティ 3
作成者のビュー 6
承認階層 6
承認者のビュー 6
スコアカード 2
セキュリティ 7
選択リスト 7

[タ行]

注釈情報の消去 9
データ・フローの表示 5
転送設計 5
ドリルスルー 7

[ハ行]

ビュー 6
フィーダーの最適化 4
補足情報 9

[マ行]

モデルのダイアグラミング 5

[ラ行]

リンク・エディット 8

A

Applications のメンテナンス・ユーティリティ 7

E

E メール通知 8

I

IBM Cognos Analysis for Microsoft Excel:新機能;新機能:IBM
Cognos Analysis for Microsoft Excel 10
iPad 1

J

Java Web 4

M

Mobile 1

T

TM1 Applications の自動化 7
TM1 Performance Modeler 4
TM1 Web 4
TurboIntegrator プロセスのワークフロー 6

[特殊文字]

.xls の変換 4